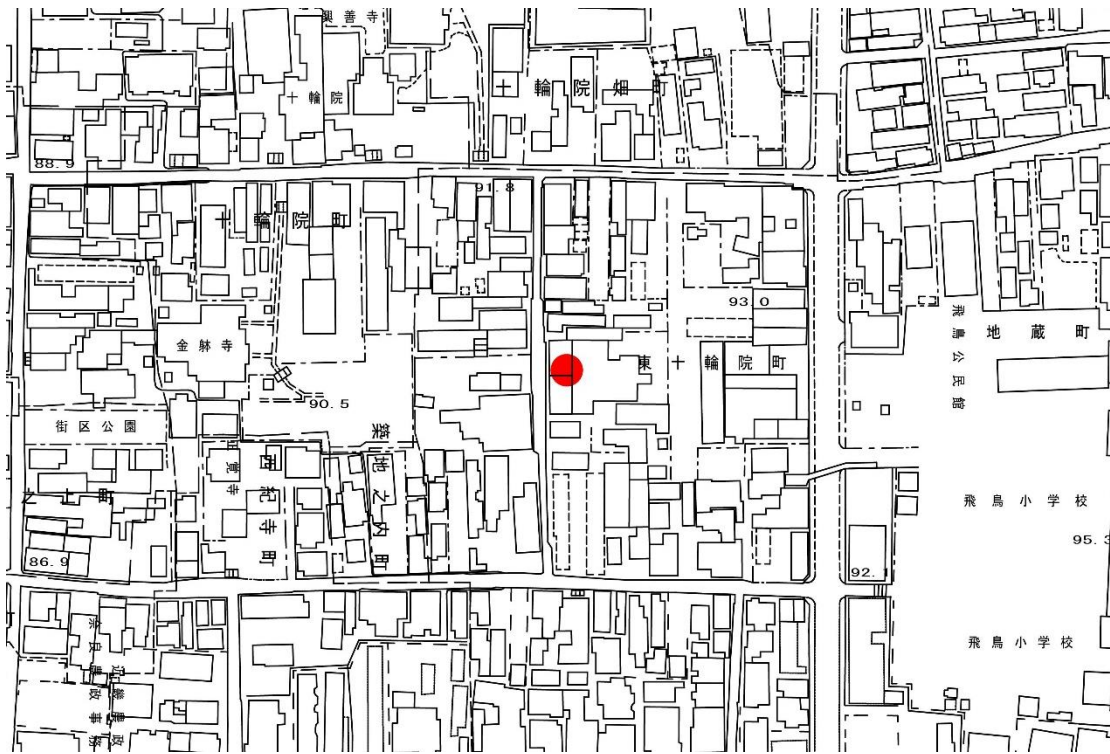


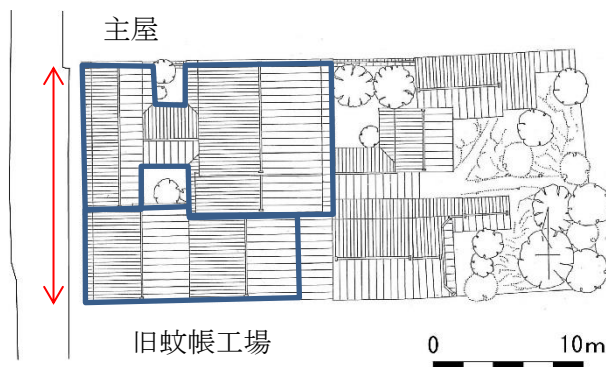
歴史的風致形成建造物 指定台帳

指定番号	19	名称	植田家住宅	
指定年月日	R1.11.22	所在地(指定地)	奈良市紀寺町 943、944、945 番地	
指定建造物	主屋	建築年代・概要	大正 8 年	木造つし二階建、切妻造、平入、棧瓦葺
指定建造物	旧蚊帳工場	建築年代・概要	大正 8 年	木造平屋一部二階建、切妻造、平入、棧瓦葺
位置 ・ 歴史	<p>奈良町の南西に隣接していた紀寺村の村内には、近世、多くの町場が発生した。植田家のある南北通りもその一つで、江戸前期頃に町となり、中通町と呼ばれた。同町には各家が1ヶ月交代で地蔵像を預かる地蔵講が伝わり、7月の地蔵祭では数珠繰りが行われる。</p> <p>植田家は、現所有者の曾祖父・巳之吉を初代とする。巳之吉は明治29年(1896)に944、945番地、明治32年(1899)に943番地を購入し、明治41年(1908)頃当地で蚊帳の製造販売を始めた。主屋と蚊帳工場は父・喜三郎が生まれた大正8年(1919)に建てたといい、登記簿からも首肯される。以来、住居及び蚊帳を製造販売する店舗兼工場として使用され、昭和18年(1943)に肘塚町へ工場を移転して以降は、旧工場は物置として使用された。主屋は、公納堂町にある町家と大工が同じといい、表構えや平面構成などがよく似る。間口20m、奥行40mの敷地内には土蔵や渡廊下、井戸屋形があり、大規模な町家の屋敷構えをよく伝える。</p>			
建物特徴 ・ 改修履歴	<p>広大な間口の北側6間に表屋造の主屋、南側3間に旧蚊帳工場が道に沿って建ち並ぶ。正面外観は、主屋表屋1階は大戸口に片引きの格子戸と板戸を入れ、出格子を2つ構える。2階は建ちの低いつしに虫籠窓を設け、軒を出桁で受けて両端に袖卯建を備える。旧蚊帳工場は、北側2間に奈良格子を構え、南側1間は木製跳ね上げ戸が付くガレージである。</p> <p>主屋の平面は、南側を通り土間とし、表屋に2室、主体部に2列6室を配し、表屋と主体部を玄関でつなぐ。表屋にはつしを設ける。主体部の2階は2列4室で、北側列の表の部屋と奥の座敷は続き間とせず、中廊下を配して2室の個室とする。座敷に透彫欄間を用い、軒を小舞裏とするなど、全体に瀟洒な意匠の良質な町家である。</p> <p>旧蚊帳工場は、切妻造南北棟の建物2棟が前後に接続し、表側を平屋建、奥を2階建とする。1階は表側上手に1室設ける以外に間仕切りはなかったが、昭和60年代に居室や物入等を設けている。2階は小屋組にトラスを用いた広い1室で、作業場としての趣を残す。</p> <p>改修履歴) 昭和60年代：表屋の床、壁等の内装を変更、旧工場を隠居部屋と車庫、物入れ等に改造。 令和元年度：土壁一部塗替、塗装塗替、駒寄修理</p>			
活用	住宅として使用			
価値	奈良の特産品である蚊帳の製造販売を営んできた家で、伝統的な町家と旧蚊帳工場の姿をよく伝えるとともに、町内一体で受け継がれている地蔵講の舞台として、奈良町の町家の暮らしにみる歴史的風致及び民間信仰にみる歴史的風致の維持向上に寄与する。			





付近見取図



-  該当建造物
-  公開範囲

配置図